

創刊号

ワタタチ



同志社大学航空部機関誌

目次

|                            |       |    |
|----------------------------|-------|----|
| 挨拶                         | 小野哲   | 一  |
| 部誌発行に際して                   | 三浦智介  | 一  |
| 同志社大学航空部行事（昭和三十四年度）及び今夏の予定 |       | 二  |
| 同志社航空部と連盟との話               | 牧野伊兵衛 | 四  |
| ソアラータ乗記                    | 向井清人  | 五  |
| 合宿練習によせて（ウインチ）             | 河口精二  | 六  |
| 初塔乗記（パチンコ）                 | 安本雅一  | 九  |
| グライダー初練習（パチンコ）             | 上田知恵子 | 九  |
| 航空部先輩名簿（二十年度卒迄）            |       | 一〇 |
| 編集後記                       |       | 一二 |

挨拶

部長

小野 哲

部誌の発行は、前から幾度か計画されたようでしたが、その都度、実現しませんでした。今年に遂に実現しました。

できればともかくとして、部規約にも掲げられている部誌発行が実現したことは嬉しいことです。継続して発行しているうちに、編集が板について来て、そして部誌の方向や企画がはつきりしたら、一そうよいものができるようになると思います。おそらく、そのとき部誌は、航空部の活動現況を云える現役の部員の記事だけでなく、最近のOBにも、そして遙かな昔の、戦前・戦中派のOBにも存分に執筆していただく工夫をこらすでしょう。

日進月歩の航空界にあつても、温故知新・古きをたずねて新しきを知ることは必要です。戦前の輝かしい同志社航空部について現在の部員は正しい知識が不足しています。戦前と戦後の間にある航空部の空白をうずめるため、且、今後の航空部のよき導きの「しるべ」のため大先輩の登場をぜひ願ひしたいと思います。

毎週水曜日、部室に集合する新人は二十名をこえ、航空部の現況は仲々活発です。部誌が出るようになったのも、一つには今年の新人部員の殺到とその活気がキツカケに働いているようにも思

います。三浦主将以下現役上級生は、新人の指導にいまわされてウレシイ悲鳴をあげています。

連盟の訓練方式が転換して、パチンコは地区の各校で自主的に消化しておかなければならなくなりましたので、京都地区の玉水訓練には例年になく熱がこもっています。そして好天に恵れて四月以来訓練のピッチもあがっています。すでに新人部員は地上滑走を終つて、数秒づつではありますが、その数秒が一日の索引きを償う貴重な数秒ですが、空中に在ります。

やがて夏のシーズンを迎えます。同志社航空部の昭和三十五年の夏も、また無事で優れた成果を収めるよう願っています。

## 部誌発行に際して

主将 三浦智介

伝統ある同志社大学の航空部に、機関紙に類するものが全くないことは、遺憾に思っていました。それに加えてOBとの連絡が不充分であるとの声を耳にするにつけ、此処に部誌発行に踏み切つた次です。

当部誌の目的は、OBとの連絡機関として、又広く一般に航空スポーツの理解を深めることであります。

何分初めての試みであり馴れないこととて、完全なものには程

遠いとは思いますが、部員は出来る限りの努力を惜しまず頑張つていきますから順次、内容も充実し意義深いものになることを確信しています。

O B 及び部員何れを問わず、部の発展を願うことは当然であります。然るに戦後航空部が再発足して以来の状態に比べて、さ程進歩がない様では、嘆かわしい状態といわねばなりません。

今年度は十五人という大量の新人が入部し、日本学生航空連盟の初級機に対する練習方針が変つたのを機会に、同志社大学の航空部を新しく内容の充実したものに育てたいと決心しています。さし当つて問題とするのは、現在当部で所有している初級機だけで満足せず、セコンダリーかソアラを購入することです。あります。世界の滑空界や、日本学生航空連盟の練習方針を見ても、セコンダリーで新人教育をする方法が望ましいことは明らかであると信じます。機体購入に関しては、部員のなみなみならぬ努力と、先輩諸兄の援助を必要とすることは言う迄ありません。万難を排して新機体購入の基盤を作る覚悟です。

最後に、先輩初め各位諸兄の当部誌及び当部に対する御指導及び御鞭撻の程をお願い致しておきます。

## 同志社大学航空部行事

(昭和三十四年度)

(昭和三十四年度)

パチンコ班

四月 十九日

八尾飛行場見学、飛行機曳航見学。

四月二十九日

玉水へ機体(パチンコ)運搬。

五月 十七日

耐空検査及びオ一回練習

五月二十四日、五月三十一日、六月七日、六月十四日、六月

二十一日、六月二十八日、以上週末練習。

七月 十七日、七月二十三日

各務ヶ原で合宿練習

八月二十四日、八月三十日

各務ヶ原で合宿練習

九月二十四日

「マルミ」で部総会及びコンバ新役員決まる。

る。

十月二十日

ナショナルより学連へ複座セカンダリー贈らる。

る。

十一月二十一日、十二月二十三日

玉水で合宿練習

十一月二十八日

「東洋亭」でO B総会

十二月 二日

立命館大学航空部と親善ソフトボール試合

二月二十日

「竹亭」で本年度卒業生送別コンバ

二月二十三日、二十六日

玉水で合宿練習。

ウインチ班

四月二十六日～五月一日

高松で春季特別合宿（オ一期）

五月二日～五月十日

（オ二期）（注、受験班は一、二期連続合宿）

七月二十八日～八月十八日

中級受験者対象強化合宿

十月十六日～十月二十二日

複座機による合宿（オ一期）

十一月一日～三日

八尾飛行場に於てオ九回全日本学生グライダー選手権大会

十一月五日～十一月十六日

複座機による合宿（第二期）

十二月十一日～十二月十七日

八尾で冬期関西、東海支部合同合宿練習（オ一期）

十二月二十日～十二月二十七日

（同）（オ二期）

今夏の予定

パチンコ班合宿（霧ヶ峰に於て）

一期 七月 十二日～十八日

二〇 七月 十九日～二十五日

三〇 七月二十六日～八月一日

四〇 八月 三日～九日

五〇 八月 十日～十六日

六〇 八月 十七日～二十三日

ウインチ合宿

（関西学院大学に於て）

一期 七月 一日～五日

二〇 七月 六日～七月十日

ウインチ夏季合宿

（八尾飛行場に於て）

一期 七月 十二日～七月二十八日

二〇 八月三十一日～九月 十一日

二十六日、二十七日、中級実地試験

八月二十七、二十八、二十九日

全日本学生グライダー競技選手権大会



## 同志社航空部と連盟との話

朝日新聞社航空部

牧野伊兵衛

学生航空連盟もいよいよ今秋からグライダーに加えて軽飛行機の操縦練習を開始する段階にまで発展して来ました。学生諸君の盛り上がる希望は着実に一歩づつ前進し、自分で大空をかけ廻り体験しながら総合科学として研究し、又航空スポーツとして操縦の腕を磨き、世界レベルに挑戦の機会を着々築き上げています。

昭和五年まだ日本の航空界が発足期にあつた時、我々の先達はいくもスポーツとしての航空を目ざし今日の基礎をふみ出しました。

ふりかえるとその歴史三十年、その間戦争による空白を完全に乗り越え、現在全国四支部約一〇〇〇人の連盟学生諸君が大空を飛び廻っています。

私も諸君と同じ夢に胸ふくらませ、同志社大学予科に入学したのが昭和十一年でした。関西では二、三の大学には航空部がありましたが、我が同志社にはない、全く残念やらくやしいやらで、落ちついていられない。何とか出来ないものだろうかと思ひつくりかけずり廻り、やつと目鼻がついたのがその年の秋頃でした。

いよいよ同志社大学航空研究会として部員五人で正式にオ一步をふみ出しました。

生駒山のもと、盾津飛行場で「アプロ」と云うプロペラーと子どもエンヂンの廻る複葉の飛行機に同乗させてもらった時の「これ、これ」と思つた気持、諸君もおわかりだと思っています。

それから卒業まで雨の日も、風の日も、根気よく土、日曜日と飛行場へ通つたものだとなつかしく思い出されます。

その後つばさを取られ戦後空白の時期が来ました。「この空は我が空ならぬ秋の空」誰かがうたいました。全く淋しい気持で毎日雲の流れをみつめていました。

昭和二十七年航空再開。日本の空にもやつと春がめぐつて来ました。

グライダーと共に過した我々の楽しかつた学園生活の思い出、何とか現在の学生諸君にもわかちたい、今の若い学生諸君の中にもきつと我々と同じ夢を持つた人がいるはずだ！ どうしたらグライダーに乗れるか、方法がわからないだろう。これは我々OBが道を教えてやらねば！ そんな気持に迫り立てられて同志社大航空部の再建に、又学連の再発足にかけずり廻りました。幸い東西OB学生諸君の熱意と努力で再び立派な組織に発展し若い諸君が元気に飛び廻っています。こんなうれしいことはありません。日進月歩の航空界は世界的にめざましい躍進を続け、今日では航空科学の水準こそ一國の経済と産業の指針であるとさえいわれ

ています。

航空スポーツに航空科学にさらに今後の前進を願つて我が母校同志社航空部の発展と栄光を祈ります。

(昭和十六年度卒)

## ソアラータ乗記

四回生 向井清人

飛行機曳航(飛行機によりグライダーを高度一千米位まで引張り上げるもの)班の一員として、その感想を述べる。感想を述べる前に、パチンコ班より飛行機曳航班に至るまでの過程を少し述べておきたいと思う。

まず入学すると同時に航空部に入り、入部より一ヶ月後に高松へパチンコ班の合宿に参加したのを最初として、それより二年後、三年生の夏には待望の中級自家用操縦士の免状をとり、さる三十五年四月一日から九日迄の合宿で、ついにグライダーの最終段階である飛行機曳航班の訓練に参加した。

では飛行機曳航というものを、自分の体験より述べて見る。

(自分の番が回つて来た)、自分の前塔乗者が滑走路の端より進入してくる。接地し自分の前で止る。キャノピー(風防)をはずし、前塔乗者がある。いよいよ自分の番だ、教官に報告し、塔乗する。同僚達がキャノピーをかぶせてくれる。これより出発す

るまでのわずかな間に点検をする。まず索の離脱テスト、メーターチェック、電話テスト、スポイラーテスト、操縦系統のテストこれで点検も終り、「異常なし」と後方に乗っている教官につける。すると教官が機外の記号手に合図をする。白旗がサツト上がる。準備よしの合図だ。前方の飛行機側の記号手が白旗を上げる。教官が二回目の合図をすると、記号手は上にあげた白旗をくくると一ぱいに回転させる。出発用意の合図だ。飛行機側も同様に記号手がくるくると白旗をまわす。飛行機が徐々に滑走を始める索がピンと張り、グライダーも走りだす。かすかなその音のこし車輪滑走を始める。

グライダーは軽いので百米も走らないうちにふわつと空中に浮き上がる。まだ飛行機は離陸していない。グライダーが五米位上ると飛行機の離陸をさまたげぬ様に水平飛行にうつす。もしダライダーが飛行機の離陸せぬ間にどんどん上昇していくと、飛行機の後部がもち上げられて、離陸できないからである。

いよいよ飛行機も離陸した。これからが大変である。飛行機とグライダーをつないでいる経六ミリあまりのワイヤーが命の綱である。索が重みで垂れ下る。そのたるみを規準として約十分間ついて行くのである。きめられた地平線と飛行機との間の距離を一定に保ちながら飛んで行くのであるが口で言う程楽ではない。索がたるむと、こんどはピンと張る。これのくり返してグライダーは常に上下している。この上下が小さく出来る様になれば飛行機

曳航技術の完成である。十分間の地平線と飛行機間の距離とのにら

み合いが終りに近づく、高度計を見ると四百五十米、もう少しで離脱だ、前方の飛行機を見ると、左右にバンクをつけながら飛んでいる。離脱せよという合図である。右手は操縦桿に、あいている左手で左前の赤い玉を手前に引く。「離脱ノ」小旗の付いた約六十米の索がグライダーの機首より離れ、飛行機の後部に垂れ下る。飛行機は索を切り離れた事を確認するや急降下し、グライダーの邪魔にならないようにさける。あとはグライダーの天下である。まず大阪港の方に機首を向けて直線滑空である。前方にはいままでの飛行機にvariety夕日にきらめく海面が美しく輝いている。直線を終り左右の三百六十度旋回をくり返した後、高度はぐんと減りもう着陸態勢に持つて行かねばならぬ。大きく左旋回し滑走路の中央白線上に機体を向ける。まもなく接地だ。車輪が「ビュ」という軽い音をたてる。前方から同僚達が走つてくる。機体は大役を終えてほつとしたのか、片方の翼をドンと地につける。同僚達がキャノピーをはずしてくれる。ベルトをはずして機体から飛びおりる。後方の教官に報告をする。曳航中滑空の批評が言われる。これで貴重な一回の塔乗の終りである。

では最後に、当校航空部自身で、曳航機を持ちソアラを持つて、単独練習の出来る日を、いや、それ迄に至らなくても、ウインチカーとセコンダリを持ち、練習が出来る様になる事を、学校側、体育会、当部員諸君に切望し、当部員が国際大会にも出場

出来る日が必ずくる事を信じて終りにしたい。

## 合宿練習によせて

(四月十七日)

二回生 河口精二

春とは云え未だ薄ら寒い日、八尾飛行場」と表札のついている貧弱な門を急いで入った。三時に集合だつたのに時計を見るともう四時少し前になつている。「これはいけない先輩にしかられる。便所掃除をやらされるかな」等と思ひながら一層足を早める。狭い様でも飛行場というものはうんざりする程広い。いくら歩いても夢の中で歩いている様に仲々前へ進まない。それと共に空の広さが気になる。ビルの谷間から見上げる圧し潰された様な空とすつかり趣きが違ふ、のびのびと手をひろげ山も家も煙突も雲も何もかもすつかり驚つかみにしてしまつている。ともすれば地球をつかんでポイと投げ捨てそうにも思える。こんな雄大な空を自由に飛べるようになるのだと思うと自分が誰よりも一番偉くなつたような気になる。だから脳の良く無い者はグライダーに乗つて自信をつければ良いんだと思う。宿舎に着くともうすでに複座セカンダリーやまどりが二機共組立てを完了し点検をしているところだ。まず教官のところへ遅れた云いわけをしなければならぬ。先輩にも何とかうまく云いわけが出来て便所

掃除もやらされずほつと一息つく間もなく機体の整備にかかった。これでやつと合宿練習にやつて来たのだという感じが空の広さと共に胸の中にしみわたる。

(四月十八日)

操縦桿をいつばい倒しているのに翼が傾いたまゝいつまでもスルスルと地上を滑っている。自動車の調子が悪いのだろうと思つていつの間に自動車が狭い路地の中へ入つて行つてしまつた、仕方が無いから操縦桿を引いて上昇しようとする目目の前に太い電線がある、危いなあと思ひながら巧みに電線をくぐりぬける。煙突が見えたのでグルグルとベタルを踏むとフワリと浮き上がり煙突の上を越すことができた。ゆつくりといやにゆつくりと雲の中へ入つて行くと急に回りが明るくなつた。じわじわと目を明けて見るともう夜が明けていた。ぼそぼそと物憂げな話し声が聞こえる。何を話しているのだろうと聞き耳を立てようとするがどうしても注意が集中せず、ぼそぼそと何の意味もなく耳をくすぐつていく。そのうち又うとうとと浅い眠りに入つた。チキショークという大きな声が灰色の静寂を破る。なんだ、起床と云つたのかバカバカしいと思つて、イライラしながらふとんの中で少しの時間を頭の中できると回わしてみろ。のつそりと起き上がり、べとべととしていやに冷たいユニフォームを着て格納庫の前に整列。オハヨースと一斉に交わす挨拶にみんな急に活気付く。ベキベキと格納庫の扉を開ける者、洗面所へ行く者、ト

イレへ走る者。朝の仕事が済むと食堂へなだれ込む。めしいつばい、みそ汁一つばい。

(四月十九日)

午前中は部屋当番に當つて練習には参加できない。それも良からう。掃除を済ませてから、宿舎前の広場にイスを引っぱり出し読書にふける。時々顔を上げるとずつと遠くで時々思い出した様にスイと小つぽけなグライダーが上がる。ヒラヒラと二三分浮いていたと思うともう草の影にもぐつて見えない。今ごろエツチラオツチラと良い年をしたオッサン連中が布張りの小さなグライダーを追つかけているのだろうと思うとおかしい。オレはグライダーに乗つてゐるんだ、などと女の娘の前でえげると、何とかわいの子だろう、なんて思われそうだ。午後練習に参加、シユーンという音を立てて目の前を大きなグロテスクなグライダーがグツと機首をもたげて上昇して行く、何と驚いた、これは全く大人の乗り物だ、こんな大物は大人のものだ、これなら女の娘の前でえげつてもはずかしく無い。

(四月二十日)

あいつの上昇は何や、傾きっぱなしやないか、こんな巾の広い滑走路からはみ出とる、あ、もう少しバンクをつけると良いのにな少し進入高度が高すぎるな、とかあいつの接地はなつとらん最少沈下速度というのを忘れとる、等と実に悟つたようなことを考えるけれど、いざ自分が飛ぶとどういふことになるのか？ 上昇中

教官が後からささやく、本当は大声でどなっているんだけど乗っている本人には小声でささやく程度にしか聞こえない。もつと上げ桿を取つて、そら右にずれている。左足を踏んで「ハイー」よーし少しづつ支えて行け。ハイーよし離脱。離つ脱あーツイチニツサン。右に傾けて旋回に入る、水準器の向うを地平線が走る、山が走る、右翼からくつきりと色分けされた滑走路が現れる。序々に水平に戻して直線滑空に入る。そのまゝ、良い姿勢で飛んでるよ。ハイーやつと声が出た。旋回中は何を云われても上の空で何がどうなつてどうしたのかさつぱりわからない。接地地勢に入る又しても頭の中がごちやごちやになつてまゝりつかない。クンと車輪が地に着く、しばらくフットバーを大げさに使っているとズズとソリが地に着き、やつと意識を取り戻す。あわてて足を踏んだり、傾きを直すような格好をして操縦桿をグラグラと動かして見るけれどもう止つてしまつたよ。

(四月二十一日)

昨夜は格納庫の扉の工事で閉められなかつたので一時間交代で二人づつ不寝番、アベックが浸入して来るかも知れないと言うので、一生懸命見張つていたけれど何もやつて来なかつた。朝からひどい雨風で練習は無く、かわりに食堂で中級学課試験の講義、午後は自由外出、てんでに雨の中をちらばつて行つた。

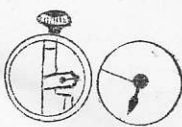
(四月二十二日)

午前中は管制タワーの電話連絡当番、タワーと滑走路を電話で直

結し、一回飛び上がる毎にタワーの管制官から許しをもらう。霧の中からうつつらと小さくかすんだ飛行機が出て来た。英語か日本語かわからぬ言葉で何やら盛んにこちらと連絡を取っている。一見何の煩わしさも無く実にスムーズに降りて来る様だけれど、こんなややこしそうな言葉を使いながら、エンジンを絞つたり接地操作をやっているのだと思うとパイロットはよほど頭が良いのだろうと思う。弘法大師みたいな人だ。屋近くなり管制官のオニイサンもひまなのか椅子を二つならべてタバコを吸いながら寝そべっている。春だなと思う。

(四月二十三日)

六日間の合宿も終つた。終るとみんな急にいそいそと元気になる。荷物を整えて学生服を着るとみた真面目な顔になり、ナツパ服を着けていた姿とは見違える程上品に取りすました様に見える。コッコツと靴の音が晴れやかに響く。しかしもうすぐ都会の煩わしさの渦中へそれぞれちらばつて行き善良さも慎しまなければならぬだろうと思うと一抹の寂しさが込み上げて来る。そして、グライダーがいつまでも善良な人達のためのスポーツとして愛されるのを願いつつ飛行場を去つて行く。



# 初 塔 乗 記

## 一回生 安本雅一

いよいよ僕の乗る番が回つて来た。新人の内で僕が一番先に乗るのだ。

快晴、風速二米吹き流しがたれさがつて少し揺れている。「安本、一二二号機塔乗、課目、地上滑走」と大きな声で教官にどなる。朝から何度も口の中で練習していた言葉なのだが、舌がもつれて流ちようにはいかなかった。骨をむきだした簡素な機体に純白の翼がまぶしい。座席について、バックタイを締める。教官が近寄つて来て、こまごまと注意を加えた。絶対に操縦桿を引いてはいけないという事を何度もくり返し注意された。いよいよ一人になつた。操縦桿を軽くにぎつて（そのつもりで）緑の稜線の尽きるところ碧空をぐつとにらむ。色々な事が頭の中を去来する。

すでに両索員は位置についている。大きく息を吸い込んで「準備よし」と声をかけると、すぐに「よし」「よし」「よし」、ピーンとこだまのように声が起つた。そして教官が「よいい引け」と号令をかけた。皆砂を踏みしめ「一二」「一二」と号令をかけながら索をひき初めた。機体がジリッジリッと動く。もう頭の中は

真空だ。必死になつて水平線をにらむ、ザザザーと音がして体が飛び出した、案外ショックはない、しかし、かなりのスピードだ、砂が唯砂だけが僕の目の前を二つに分れて飛んでゆく。ジッジッと止まつた。皆がかけよつてきた。何だか体がコチコチだつた。地上滑走とはいえ、ともかくグライダーに乗つたのだ。大変良い気持である。早く本当に空を飛びたいものだ。

## グライダー初練習

## 一回生 上田知恵子

高校時代から、気が強そうで舞台度胸がないとありがたくない定評があつた私が、不思議にも空にあこがれ、飛行機にあこがれだして、三年目。やつと自分の念願が本格的になり出して、胸がどきどきするもの、何をどうしろと言われてもピンとこないのも宙に浮いた気分がするもの、無理なかつたような気がする。しかも部員の中で女子はたゞ自分のみであつた。

整列し、号令をかけていくのから順に一日の予定が進んでいくのだが、するもの、聞くものが一度や二度はよく似た場面にくわしていたものの、初めての経験。

ケイレイクをするのも友達同志でふざけてやつた事はあつたがいざ本番となるとテレクサイ。いつものおしゃべりもヒソソリコ

ン。綱を引張つたり、報告をしたり、どきまざしながら自分の塔乗の番がきた時には不安が山のように。

先に教えられた傾き修正をうまく使えと教えられても無我夢中。しかし人全部の力をかりて動くグライダーに徐々に魅せられて来たようだ。

朝からずつと顔を真赤に焼いて一日の練習が終つたのは五時頃。一日のなしたすべての事がぐるぐる頭の中をまわりだし、教官の声やみんなのかけ声が頭の中で反響する。

すべてが初経験だつた。玉水でのはりきつた初練習をすごして感慨無量。

自分の大きな夢（自分自身で何か大きな夢を持つていると思ひ込んでゐるのだが）の段階をスタートして一段しつかり踏みしめたようないゝそれが一番の近道であるような………。

いいあらわしたらいろんな言葉が次々に出てくるだろう。記念すべき三日間だつた。

そうして思つた。

ヤルゾー 自分は何かをしはじめたんだ。たくさん仲間を持つた喜び。山の頂上が見えて来たような気分。

大げさな云い方かもしれないが、ほんとうにうれしさで野原をかけまわり、とびまわりたいくらいなんだ。

# 航空部先輩名簿

| 卒業年度 | 氏名     |                                                              |
|------|--------|--------------------------------------------------------------|
| 一四 経 | 尾田 幸雄  | 大阪府南河内郡高鷺村<br>大阪市東区北浜二丁目五三<br>共同石炭欽業 KK 電 (23) 六八四五代表        |
| 一六 経 | 石田 文雄  | 東京都 朝日新聞東京本社航空部<br>京都市左京区下鴨貴船町九七<br>朝日新聞大阪本社航空部<br>電 23 〇一三一 |
| 一六 経 | 竹内 清逸  | 京都市左京区岡崎円勝寺町九一<br>京都市下京区西七条比輪田町六<br>東洋金属 KK                  |
| 一六 経 | 橋本 元雄  | 岐阜市長良法久寺町一八                                                  |
| 一六 経 | 中村 元次郎 | 大阪市阿部野区天王寺町三ノ一九八<br>大阪市西淀川区御幣島中四丁目二十<br>近畿印刷 KK              |

|      |       |                                           |
|------|-------|-------------------------------------------|
| 一六經  | 西田勤   | 布施市上小阪町二丁目五六                              |
| 一六經  | 村上清   | 坂本病院内<br>広島県御調郡向島町岩子島一五二六                 |
| 一七經  | 白地和敏  | 神戸市生田区海岸通一 宮地汽船K<br>大阪市東淀川区十三西之町三         |
| 一八法  | 岡山巖   | 大阪市東区安土町四丁目五五<br>田村駒K 電 23五六四             |
| 一八經  | 市川文雄  | 愛知県豊田市西小字梅坪<br>トヨタ自動車K                    |
| 一九經  | 牧野鉄五郎 | 大阪市生野区東桃谷一ノ五八二二<br>西宮市南昭和町一〇〇<br>電 西宮二四九三 |
| 一九經  | 確井宏司  | 朝日新聞大阪本社航空部<br>日本学生航空連盟                   |
| 一九經  | 友広勝   | 静岡市大岩宮下町六                                 |
| 一九法  | 角田信三  | 神戸市兵庫区都由乃町一ノ六七<br>原合名                     |
| 一九法  | 柳井恒郎  | 大阪府箕面市桜井三〇六                               |
| 一九經專 | 紀井種三郎 | 山一証券                                      |
| 一九經專 | 千葉麗三  | 東京都杉並区善福寺町三五七森岡方                          |

|      |       |                                                                     |
|------|-------|---------------------------------------------------------------------|
| 一九經專 | 本田芳郎  | 東京都中央区日本橋本町二丁目<br>山之内製菓                                             |
| 二〇外專 | 上田昌三郎 | 金沢市下伝馬町二七<br>金沢市白銀町三六 セメント商事<br>京都市下京区楊梅通烏丸東入ル<br>電 (5) 八三八四        |
| 二〇外專 | 岡本清   | 京都市下京区松原通室町東入ル<br>上田喜KK<br>大阪市浪速区広田町七三<br>大阪新日電販売K<br>電 64六八五五、七三四七 |

紙面の都合により二〇年度卒迄記載  
二〇年度卒以後は次誌に記載致します。  
なお、住所変更の場合はお知らせ下さい。



## 編集後記

○春期と秋期年二回発刊の予定で今回は特別号として発刊しました。

○編集員一同不慣れなものでドロ船に乗つて出港した様な有様ですが我々は皆一生懸命やりました。

○今年新しく模型班が誕生し小野部長も忙しいながらも力瘤を入れ国際級のレベルに引上げんと努力しておられる様子。御期待を乞う。

○同立戦の勝祝い。合宿無事終了祝い。学生どもは名目をつけて飲むのが古今のならわし。されば部誌創刊を祝して……

○先輩諸氏へー夢多き青春時代を想い出して部室へおたちよりください。古い部歌、その当時の部の様子などを御知らせくださいましたら幸いに思います。

○末筆ながら原稿をおよせくださった先輩に編集に際して御指導くださいました部長に心から感謝いたします。

○八尾に玉水に霧ヶ峰に我々は先輩につづけとがんばっていますグライダーマンに幸あれ。

注 裏表紙は新しい襟章にしました。

### 航空部創刊号

発行日 昭和三十五年六月二十日

発行所 同志社大学体育会航空部

印刷所 北斗プリント社

TEL ⑦ 〇二二一

